

獣害に立ち向かう集落、リーダーが増加

甲賀農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

甲賀地域の野生獣による農作物被害は、依然として被害が高いレベルにあります。この要因として、被害集落で十分な対策が講じられていなかったり、既存の防除技術だけでは十分な効果が継続して得られにくいことなどが挙げられます。

そこで、集落環境点検を通じた被害防止計画の作成および実践への支援、さらには各集落で、その中核となる人材育成を行いました。

【普及活動の内容】

(1) 集落環境点検の実施

要請のあった集落へ出向いて説明会・報告会を行い、点検の目的を理解後に、環境点検を4集落で実施しました。その結果、防護柵の不良か所、放棄果樹などの誘因物、野生獣の侵入経路などを確認し、防除対策のヒントを得ていただきました。

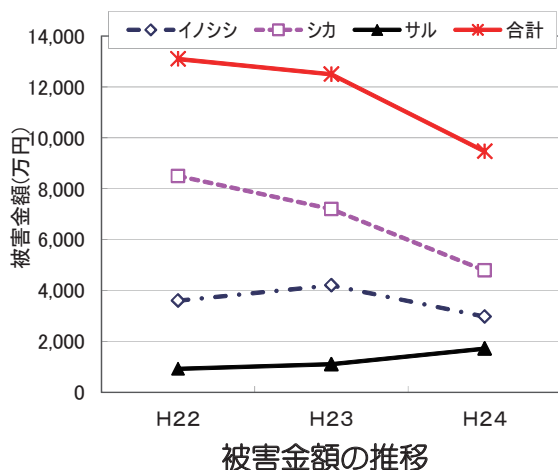
(2) 集落リーダー育成講座の開設

被害を受ける62集落のうち、26集落から推薦された49名を対象に講座を開催しました。

内容は、獣害に関する基礎知識、集落環境点検および防護柵の現地研修、心理的ストレスを活用した防除技術としました。最終講座では、獣害対策実施計画の作成実習を行い、計画書に基づく対策についてリーダーへ助言するため、現地巡回もあわせて行いました。

【普及活動の成果】

集落環境点検を実施した集落数は年々増え今年度で延べ32集落となり、それぞれの状況に応じた住民主体の被害対策が進んでいます。そのため、防護柵や捕獲の効果を高めるこれらの取り組みにより、被害集落数がピーク時の約40%、被害金額が35%減少（いずれも平成24年度県調べ）しました。また、リーダー育成講座の修了者は延べ69名となり、リーダーを中心に集落で施工した獣害柵を自主点検したり、これまでの対策を改善する事例も見られるようになり、獣害対策への取組が着実に進んでいます。



リーダー育成講座